

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 6 月 17 日現在

機関番号：32418

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02650

研究課題名(和文) 日本語グレイディッド・リーダー「JGRさくら」を利用した多読支援システムの開発

研究課題名(英文) Development of a Support System for Japanese Extensive Reading

研究代表者

中野 てい子 (NAKANO, TEIKO)

尚美学園大学・その他部局等・非常勤講師

研究者番号：20635932

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本語多読教材「JGRさくら」を電子書籍化し、日本語多読支援システムで公開した。このシステムは、教室外の日本語学習者がe-ラーニングで日本語多読教材を読むことにより、自律的に学ぶために開発された。事後アンケートとシステムの利用ログから、コメント掲示板で他の学習者の感想が読めること、個人ページで自分の進捗を知ることによって、読むことが楽しくなり、もっと読もうという動機付けになっていることがわかった。また、教師が介在しなくても、ビデオ教材を使うことによって、学習者が多読を始めることができることが示された。

研究成果の概要(英文)：This study released a support system for Japanese extensive reading using digitized Japanese graded readers "JGR SAKURA". This system was developed for Japanese learners outside the classroom to learn Japanese through e-learning by reading digital Japanese graded readers with autonomy. From the results of the post-questionnaire and the logs on the system left by users, it was found that reading other users' opinions on a comment board and knowing one's progress on their personal pages helped participants to enjoy reading and motivated them to read more. Moreover, the results confirmed that independent learners without teachers could start Japanese extensive reading by using video clips.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育 eラーニング 自律学習 付随的語彙学習 語彙レベルテスト コロケーション

1. 研究開始当初の背景

多読は英語教育で用いられる学習法の一つであり、語彙力をつけ[1]、読解力も向上させる有効な方法であるとして行われている。Day & Bamford[2]は多読授業の目的として、第二言語での「読み」に対する肯定的な態度、自信、動機付け等を挙げている。「読み」に対する動機付けに有効であることは既に報告がある[3]。Day & Bamford[2]は学習法としての多読の特徴 10 項目を挙げているが、日本語教育で行われている「精読」と対照的な点は、学習者の言語能力の範囲内の読み物を、辞書なしで、通常より速い速度で、中断なく滑らかに読むことである。つまり、ボトムアップ式の精読に対して、多読はトップダウン式に内容を理解する読み方である。多くの日本語教育における読解は精読を中心に授業が行われているため、日本語が上級レベルであってもトップダウン式の速読に慣れていない学生が多い。そのため、大学入学後にも多読の必要性が指摘されている[4][5]。しかし、既存のカリキュラムに多読を組み込む時間を取ることの難しさや、既存の読解授業との質的な隔たりから、多読授業の普及は容易でない。この点を踏まえ、Day & Bamford[2]は多読授業の導入方法として、(1)独立した多読単独の授業、(2)既存の読解授業の一部、(3)既存の授業への単位なしの補完、(4)授業外活動の 4 つの方法を挙げ、小さい規模から始めることを勧めている。日本語教育においても、独立した多読単独の授業も行われているが[6][7]、既存の読解授業の一部として[4][8][9][10]、あるいは、授業外活動としての多読[11]の導入の報告が多い。また、多読教材ライブラリー等の環境整備の問題から、全員で同じ作品を読んだ例もある[5]。Day & Bamford[2]は多読の特徴 10 項目において、自ら選んで読むことを提唱しているが、これ以外に多読の機会を作るための様々な方法を提案し、教師が目的によって導入方法を選択する可能性があることを示している。

これまで申請者は、留学生の日本語能力の補完を目的とし、既存の授業への単位なしの補完として e-learning の多読と体面授業のディスカッションを組み合わせたブレンド型の多読を導入してきた[12]。多読は授業外に個別で行える学習方法でもあるという点から、自律学習の側面と可能性を持つ。しかし、教師から見て多読が必要だと考えられる学習者は、「読み」に対する意欲が低い場合が多いため、教師が学習者のモチベーションの維持を支援する必要がある。また、自律学習という点で考えるならば、教室外の学習者の多読も支援すべきであろう。申請者は、個別学習である多読において、他者の存在が感じられるコミュニティを構築すること[13]、教師のインストラクションを取り入れることで自律学習を促す必要があると考える。また、語彙学習の面からは付随的語彙学習だけでなく、コロケーションへの意識を持つこと

も意味深いと考える。上記の背景とこれまでの研究成果をもとに、本研究ではインターネット上で電子版多読教材を利用するためのシステムを開発し、公開を目指す。このシステムは、インターネットを通して学習者に自ら日本語を学ぶ機会を提供し、これを支援するものである。

2. 研究の目的

日本語グレイディッド・リーダー「JGR さくら」を利用し、学習者と教師のための多読支援システムを開発することを目的とした。

- (1) 自律学習として多読を行う国内外の日本語学習者のために電子版多読教材のライブラリーを整備し、多読を継続するための支援を行う。
- (2) 多読を導入する教師が直面する問題を解決するべく、ブレンド型多読授業を行うための環境を整備する。

3. 研究の方法

本研究では、3 つのアプローチによって研究を行った。

(1) 多読支援システムの開発

既存のブレンド型授業支援サイトを土台とし、教室外の学習者のための自律学習用の多読支援システムを開発した。新たな機能として、教室外の学習者が教師なしで多読を始められるよう、多読の方法を説明するビデオ教材を制作した。また、コメント掲示板を増設し、学習者同士で感想等を共有できるようにした。さらに、読書履歴を表示する個人ページを設け、進捗状況の表示方法やライブラリーの構造を改善した。

(2) システムを使った多読授業の実践

既存のブレンド型多読授業支援サイトにコメント掲示板を増設し、ブレンド型の多読授業を行った。また、多読フォーラムの予備調査として、Facebook で多読グループを作り、ディスカッションを試みた。

(3) コンテンツの開発

「JGR さくら」を電子書籍化し、多読支援システムで公開した。と多読のための語彙レベルテストの開発を継続して行った。また、JGR さくらのコーパスからコロケーションを抽出し、教材への利用方法を検討した。

4. 研究成果

(1) 多読支援システムの開発

自律学習用の多読支援システムを開発し、国際学会で発表・公開した(中野他 2017)。

自律学習用の多読支援システムを試用し、利用者を対象とした調査結果を国際学会で発表した(Nakano 2017)。アンケート調査で、ビデオ教材のわかりやすさ、コメント掲示板で他の学習者の感想が読めることなどが利点としてあげられた。多読フォーラムの予備段階として Facebook のグループ・ディスカッションも試みたが、コメント掲示板と Facebook グループを比べた場合、コメント

数に大きな違いが見られなかった。この結果から、多読フォーラムの構築方法を見直した。

学習者によるシステムの評価をオンラインジャーナルで報告した(Nakano 2017)。アンケート調査の結果、個人ページで自分の進捗を知ることが読みの動機付けになっていた。電子書籍の利点は、いつでもどこでも本が読める点であり、紙の本では読む時間がなかった人に読む機会を与える可能性があることもわかった。多読教材の有用性と多読のための語彙レベルテストの必要性も示された。

(2) システムを使った多読授業の実践

ブレンド型多読授業支援サイトを使った多読授業の実践をオンラインジャーナルで報告をした(Nakano 2016)。

ブレンド型の多読授業において、多読フォーラムの予備段階として Facebook で多読のグループ・ディスカッションを試みた結果を国際多読学会で発表した(Nakano 2015)。Facebook で多読グループを作る利点は、他の学習者のコメントがリアルタイムで通知され、それが読むことへの動機付けになる点だった。

(3) コンテンツの開発

「JGR さくら」の制作を継続して行い、新たに電子化する作品の準備をした。

多読のための語彙レベルテストは、最終レベルまで作成し、日本語母語話者への試行結果から、問題のあるアイテムの差し替えを行った。日本語学習者への試行を行った上で、システム上で受験できるようにする計画である。

タスク練習サイト用に JGR さくらのコーパスからコロケーションを抽出した結果、リライトされた多読教材では限られたコロケーションが使われていることが明らかになった。そこで、タスク練習用の教材には読み物と異なる文脈のコロケーションを使用することとした。

<引用文献>

- Huckin, T. & Coady, J. (1999) Incidental vocabulary acquisition in a second language. *SSLA*. 21, pp. 181-193
- Day & Bamford (1998) *Extensive reading in the second language classroom*, Cambridge: Cambridge University press
- Mason & Krashen (1997) Can extensive reading help unmotivated students of EFL improve? *ITL Review of Applied Linguistics*, 117-9, 79-84
- 福本亜希 (2004) 「日本語教育における多読の試み」『日本語・日本文化』大阪外国語大学留学生日本語教育センター (30), 41-59
- 江田すみれ他 (2005) 「中・上級の学習者に対する短編小説を使った多読授業の実践」『日本語教育』(126), 74-83.
- 二宮理佳他 (2012) 「多読授業が情意面

に及ぼす影響-動機づけの保持・促進に焦点をあてて-」『一橋大学国際教育センター紀要』(3), 53-65.

川名恭子 (2012) 「上級学習者を対象とした多読授業-夏期日本語教育 C7 クラスにおける実践-」『ICU 日本語教育研究』(9), 61-73.

Hitotsugi & Day (2004) *Extensive reading in Japanese, Reading in a Foreign Language*, Vol. 16, (1), 20-39.

Wei (2006) *Reading for Meaning and Incidental Vocabulary Acquisition: The Case of Japanese, Acquisition of Japanese as a Second Language*, (9), 5-22.

熊田道子 (2012) 「『自由読書』-「読み」を個人のものであるために-」『早稲田日本語教育実践研究』(1), 71-83.

三上京子他 (2011) 「多読による付随的語彙学習の可能性を探る-日本語版グレイディッド・リーダーを用いた多読の実践と語彙テストの結果から-」『国際交流基金日本語教育紀要』(7), 7-23.

中野てい子 (2013) 「電子教材を活用したブレンド型多読授業の導入」尚美学園大学総合政策論集 17 号, 137-144.

Naoko Kuga, Teiko Nakano, Yan Cong, Jaeyoung Jung, Shin-ichi Mayekawa (2006) "A Study of Social Facilitation Effect on e-Learning", *E-Learn 2006 Conference Proceedings*, 1659-1664.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Teiko Nakano, "Extensive Reading for Second Language Learners of Japanese in Higher Education: Graded Readers and Beyond", *The Reading Matrix*(査読あり), Vol.16, No. 1, 119-132, April 2016

(<http://www.readingmatrix.com/files/14-nd385116.pdf>)

Teiko Nakano, "Development of a Support System for Japanese Extensive Reading: An Evaluation of the System by Learners", *International Journal on Advances in Intelligent Systems*(査読あり), Vol. 10, No. 3&4, 423-433, December 2017.

(http://www.thinkmind.org/index.php?view=article&articleid=intsys_v10_n34_2017_21)

[学会発表](計3件)

Teiko Nakano, "Implementing Extensive Reading in Japanese as L2 Environment: A Case Using Facebook to Build a Reading Community", *The third World Congress on Extensive Reading* (ポスター発表), 2015 September, Dubai, United Arab Emirates.

Teiko Nakano, "Implementing Extensive Reading in Japanese as L2 Environment: A Case Using Facebook to Build a Reading Community", Proceedings of The Third World Congress on Extensive Reading (<http://erfoundation.org/wordpress/>, の発表の論文, 査読あり) 69-78, 2016 August.

Teiko Nakano, "Development of a Support System for Japanese Extensive Reading: Supporting learners' autonomous learning outside the classroom", Proceedings of The Ninth International Conference on Mobile, Hybrid, and On-line Learning eLmL2017 (査読あり), 13-16, 2017 March, Nice, France.

中野てい子・原田照子・山形美保子・酒井眞智子・宮崎妙子・草野宗子・今井美登里・三上京子「日本語グレイディッド・リーダー「JGR さくら」を使った多読支援システム：自律学習のために」CASTEL-J 第7回国際大会予稿集(査読なし)pp.102-103, 2017年8月, 早稲田大学.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

多読支援システム「さくら多読ラボ」

<http://jgrpg-sakura.shobi-u.ac.jp>

6. 研究組織

(1)研究代表者

中野 てい子 (NAKANO, Teiko)

尚美学園大学・非常勤講師

研究者番号：20635932

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

原田 照子 (HARADA, Teruko)

山形 美保子 (YAMAGATA, Mihoko)

酒井 眞智子 (SAKAI, Machiko)

宮崎 妙子 (MIYAZAKI, Taeko)

三上 京子 (MIKAMI, Kyoko)

草野 宗子 (KUSANO, Muneko)

今井 美登里 (IMAI, Midori)